

製品名: ORCTL2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15501**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	43kDa

抗原情報

遺伝子名	SLC22A18
別名	SLC22A18; BWR1A; BWSCR1A; HET; IMPT1; ITM; ORCTL2; SLC22A1L; TSSC5; Solute carrier family 22 member 18; Beckwith-Wiedemann syndrome chromosomal region 1 candidate gene A protein; Efflux transporter-like protein; Imprinted multi-membrane-spa
遺伝子 ID	5002.0
SwissProt ID	Q96B11
免疫原	抗血清はヒト ORCTL-2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 359-408

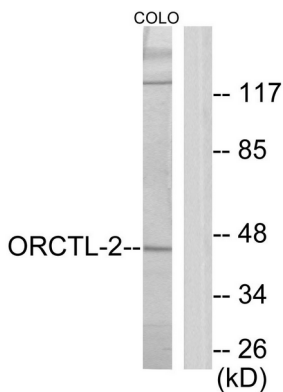
背景

この遺伝子は、重要な腫瘍抑制遺伝子領域である 11p15.5 のインプリント遺伝子ドメインに位置する、複数の腫瘍抑制性サブトランスファー断片の1つです。この領域の変異は、ベックウィズ・ヴィーデマン症候群、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、副腎皮質癌、肺癌、卵巣癌、乳癌との関連が報告されています。この遺伝子はインプリントされており、母系アレルから優先的に発現します。この遺伝子の変異は、ウィルムス腫瘍および肺癌で確認されています。このタンパク質は有機カチオン輸送体として機能し、腎臓におけるクロロキンおよびキニジン関連化合物の輸送に関与している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする、複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2015年10月]、注意: Met-1 と Met-17 のどちらがイニシエーターであるかは不明です。、疾患: SLC22A18 の欠陥は乳がんに関連しています[MIM:114480]。、疾患: SLC22A18 の欠陥は肺癌と関連しています[MIM:211980]。、疾患: SLC22A18 の欠陥は、横紋筋肉腫 1 型 (RMS1) の原因です[MIM:268210]。横紋筋肉腫は、横紋筋に由来する悪性腫瘍 (肉腫) です。、機能: プロトン流出対向輸送機構に基づいて、有機陽イオンの輸送体として機能する可能性があります。腎臓におけるクロロキンおよびキニジン関連化合物の輸送に関与している可能性がある。、類似性: 主要促進因子スーパーファミリーに属する。有機カチオントランスポーターファミリー。、細胞内局在: 腎近位尿細管の頂端膜表面に局在する。、サブユニット: RNF167 と相互作用する。、組織特異性: 成体および胎児の腎臓、肝臓、および成体結腸で高発現。胎児腎近位尿細管 (タンパク質レベル) で発現。心臓、脳、肺で低発現。、

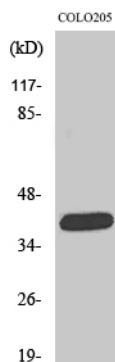
研究分野

シグナル伝達; 代謝; 細胞膜; チャンネル

画像データ



ORCTL-2 抗体を用いた COLO205 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ORCTL2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析